

行政報告

市議会九月定例会が九月三日に招集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から、主なものの要旨をお知らせします。

雇用の拡大に

取り組んでいきます

誘致企業の工場建設始まる

今年四月から八月までの市内の企業倒産や経営規模の縮小件数は、製造業を中心に十一件と高いレベルにあります。中でも七月二日に株式会社正札竹村が自己破産した

ことは、地域経済のみならず、市民にとっても大きな衝撃を与えました。市と商工会議所では、直ちに相談窓口を設け、融資制度など多面にわたる相談を受けてきました。幸い、懸念されていた連鎖倒産の発生はありませんでした。

大館管内の七月の有効求人倍率は、〇・四一と過去最低水準となり厳しい状況にあります。そのため、市では雇用対策を最重要事項と認識し、これまで雇用の拡大に積極的に取り組んできました。その結果、誘致企業である株式会社エコリサイクル、株式会社テーエムシーの二社が四月から、株式会社丸祐運送は八月一日から、それぞれ操業を開始し、この三社を合わせて五十三人の新規雇用を創出することができました。また、今



月中旬にオープン予定の釈迦内ショッピングセンターにおいても八十人の新規雇用が見込まれています。

更に、県営大館第二工業団地に進出が決定した菱山製薬株式会社大館工場は、七月十七日に起工式

農作物の成育

今年六月月上旬までの天候は順調でしたが、七月の日照量が少なかったこともあり、全体的に農作物の成育は軟弱で遅延傾向を示しています。

を行い、来春の操業に向け工事が順調に進んでいます。将来の雇用人員は五百人が見込まれ、雇用面においては一定の効果が見えてきています。今後も、地域経済活性化に向け、引き続き多角的に取り組んでいきます。

水稲は平年並に

の徹底を図ったため、平年作にこぎつけるものと思っています。

野菜は日照不足の影響を受け、露地キュウリや施設トマトなどの出荷数量が昨年より少なくなっています。果樹については四月末の遅霜で、樹園地によっては着果量に相当のばらつきが見られます。

今後とも収穫期に向け、気象情報を的確にとらえ、関係機関との連携を図りながら指導の徹底に努めていきます。



水稲は、天候の影響から、出穂が平年より遅くなるなどしていましたが、八月中旬以降天候が回復してきています。また、一斉防除

